

御縁といふこと

河島 弘明 (岐阜市出身)

「みんなどこかで繋がっていて、ホットする瞬間」を感じる事ができる。

面白くもおかしくもない人生に、人前で話題にする力も中身もないことを承知しているが、是非是非にといわれ、一歩踏み出してみることにしました。

学生時代に原子力工学科に学び、その後は、殆ど原子力に関連する分野を歩んでいる。日立製作所に入社し、日立製作所創業工場であり原子力部門のある日立工場配属となり、社会人生活のスタートを切った。

△御縁の話其の一△ 土地の御縁 長良川の鶉の故郷

岐阜生まれの私にとって、常磐線上野発の列車に乗り込むことは、岐阜とは縁もユカリもない遙か遠い地へと流されてゆく心細い出来事を意味した。

しかしその日立に住んでみて、伝統ある「岐阜長良川の鶉飼の鶉」は、「隣町十王町、鶉の岬」の「海鶉」であることを知り、驚きと安堵が交錯した。その後十王が日立に加わり、日

立は遠い無縁の地ではなく、「長良川の鶉の故郷」、まさに「岐阜縁の地」となった。岐阜も日立も所詮お釈迦様の掌の内と感じつつ、今も日立に住み続けている。



2010年12月18日撮影、「日立、鶉の岬」。鶉の捕獲場を撮影しようとしたが、本稿執筆時は、鶉の捕獲時期につき立ち入り禁止。1~3月、7~9月は見学できる。

この岬は、渡り鳥海鶉が休息するポイントで、捕獲時期は春と秋の2回。また、年間宿泊率21年連続全国1位(2009年度93.5%)の茨城県立国民宿舎「鶉の岬」がある。2003年には、海鶉捕獲場が高波による浸食で崩落したが、岐阜市長や関市長他のお力により、2004年に再築され、今に至っている。感謝!!

△御縁の話其の二△ 人の御縁

一期一会

日立工場では原子力開発部に配属され、高速増殖炉「もんじゅ」のシステム設計を担当した。幾年も過ぎ原子力設計部へ異動し、沸騰水型原子炉の原子炉圧力容器設計の技師(世に言う係長)となった。外見ではコップの中の人事異動だが、専門性が高く責任も重いのので別分野への異動と感じていた。異動初日、課長から2時間ぐらいのレクチャーを受けた。

ところが翌日、「アルゼンチンからの日立工場への短期実習生に対してレクチャーせよ。」との命。異動後たつた二日目である。遠来の客人に失礼と思いつつ、聞いたばかりのことを、且つ英語で説明した。その時、「地球の裏側の人と二度と会うこともあるまい」とも思ったが、「一期一会だ。最善を尽くそう。」と思い直し、四苦八苦しながら説明を了えた。

約一年後、何と南米への原子力訪問団の話が舞い込み、日立からは私に参加することとなった。案の定、アルゼンチンでの講演終了直後、会場から、一年前説明した当の相手その人が演壇に来てくれて旧交を温めることになった。

「二期一会」。遠い将来、地球の裏

側と云えども、また会うこともある。「常に誠を尽くすべし」と心に刻み込まされた。

△御縁の話其の三△ 仕事の御縁

随所に主となれば、 立処みな真なり^(注)

日立工場では大半を原子力部門で過ごしたが、その後日立製作所本社で短期間ではあったが、宇宙通信を担当することになった。その時、一時的ではあるが、「これで原子力から足を洗うことになる。」とか「転石苔を生ぜず」という気分になった。

しかし、ありがたいことに「原子力との御縁」が繋がっていて、「随所に主となれば、立処みな真なり」という気持ちになり、主体性を持って新しい分野に携わることができた。
(注) 臨済宗の開祖臨濟義玄(806~867)の言葉

丁度1999年の「JCO事故」の後にあたり、全国の原子力施設立地箇所非常時対応施設「オフサイトセンター」の建設が始まっていた。オフサイトセンターには地震に強い「衛星通信設備」が設置されることになり、それらの一部を私の職場が担当した。良いものを作るには、使う側の事情をよく理解していることが大切である。私にとって新分野である宇宙通信の場で、原子力での経験を活かして役に立てることが出来た。

蛇足ではあるが、御縁について：日本人なら間に2人、世界なら5人を立てれば、誰でも繋がるという。「求めよ、そこに縁はある」である。「多くの御縁に支えられている」ことを実感し、感謝しています。

マスターズ漕手の思い

松野 忠衛 (岐阜市出身)

62才からボート漕ぎを再開し、学生時代の漕歴4年を上回るようになった。生涯スポーツとしてボートを選び、この先できるだけ長くボートを楽しめればと思っている。

母が言岡橋左岸の向島の出身で、隅田川でボートが漕がれる様を見ながら育ち、子供の頃には来賓席に潜り込んでレガッタを観戦していたと聞かされてきた。私が大学でボート部に入部したのも何かの縁があったのかと思う。

学生時代は、全日本チャンピオンを目指し練習に精を出したが、戦績は、せいぜい準決勝止まりだった。

就職した企業にボート部は無く、創部活動を行ったがあえなく却下された。しかし、ボートへの情熱は残っており、一人で漕ぐことに決め、シングルスカルを購入した。初任給

の5倍、現在価格で百万円位だった。ボートの不足分を親に出してもらった。結局は、ほとんど出してもらったことになってしまった。仕事に慣れるに連れ、仕事量は急増し、ボートを漕ぐ余裕が無くなった。その後の転勤、海外勤務と十分な乗艇機会がないまま廃艇とせざるを得なかった。愛艇に対し、両親の好意に対し、まことに申し訳ない思いが残った。以来、約40年、企業戦士としての戦いが続き、水上での戦いからは遠ざかった。学生時代に鍛えたスポーツ体力はどんどん低下し、180cm・75kgの身体は90kgへと繁栄なき膨張を続けた。

しかし、この間、ボートに対する情熱を失ったわけではない。

対抗意識の強かった各大学の垣根を越えた日本ボートマンクラブというクラブ組織が発足していた。20年ほど前から、懇親パーティへの参加やお遊び程度の乗艇を手始めに漕友を増やしていった。リタイヤーと同時に色々なクラブから勧誘を受けていたが、私の子供時代、毎日のように親しんだ長良川(忠節橋下流)の雰囲気を残し、自宅のある茅ヶ崎からも楽に通える「多摩川クラブ」(新丸子・ガス橋周辺)に所属することに決め、ここからマスターズ漕手として再出発することとなった。ボートの普及を楽しむことを主目的

とし、地域の人達との関わりの深いクラブであったが、競技ボートへの関心が高まり、意を同じくする漕手が集まり各種レガッタにエントリーするようになった。



ブルーのユニフォームが多摩川クラブ
途中まではかなりリード。私は5番(舳から5人目)

レガッタに参加するクルーは、大学や企業名を背負ったものが大半であり、我がクルーは出身大学も色々(即ち漕法もバラバラ)で、「あれは何者だ」と思われていたようである。そんな無名のクルーに負けて悔しがる相手の姿を見て、増々戦意を高めていった。

しかし、残念なことにボートのメッカであった隅田川では色々な事情でボートを漕ぐことができず、春の早慶戦と夏の隅田川レガッタにのみ水面がボートマンに開放される。隅田川で漕ぎたいというボートマン

は数多いが、参加できるクルーは限られる。初めて隅田川で漕げた時は感激した。今年もスカイツリーの下で漕げたら良いなと思っている。

世界マスターズレガッタが欧米で開かれており年代別・種目別のチャンピオンを決める。日本からも元気のいいクルーが参戦するが勝てない。国内でもという機運が高まり4年前から全日本マスターズレガッタが開催され、今年第4回を迎える。男・女・混合で年代別に各種目毎に競われる。激戦となるもの、勝ち易いものとエントリー時点から勝負が始まる。昨年は65〜70才でエイト・フォア・ダウルスカルで出漕し、ダウルスカルで勝った。エイトが最速艇で人気もあり、この種目で勝利に執念を燃やすボートマンが多い。昨年は一昨年のチャンピオンであった日本ボートマンクラブに僅



残念 最後は追いこされる。

差で破れ悔しい思いをした。

今年は、若手を加え60〜65才の工
イトの勝利と、ダウルスカルの連覇
を狙い練習を開始した。一般に年令
と共に体力が落ちると言われている
が、今では以前のスポーツ体力に近
付いており、体力は増加している。私
が持つスポーツ体力の極限まで近づ
き、そこから経年降下が始まると考
えている。昨年は、米コンセプト社の
ローイングマシンを購入した。全世
界に普及している優れた物で、ポー
マン以外のアスリートも補助に用い
ている。各種メニューとデータを採
ることができ、短時間で運動量を確
保できる。消費したカロリーを安心
してアルコールで補充している。こ
の先10年位は激しい競技も辞さずそ
の先は様子を見てゆったりと漕げれ
ば良いと思っている。日本は長寿国
でありポートにおいても70才位を境
に欧米人に接近し、逆転できる可能
性がある。尊敬する大先輩が80才を
超え世界マスターズで勝ち、話題と
なった。80才で筋力アップを考え、新
たなトレーニングにチャレンジする
姿には敬服もし、目標ともなる。刺
激を受けて高齢で世界に挑戦する人
が増えてきており、私もその一人に
加われればとも考えている。

いずれにしても健康でなければ
成り立たない人生プランである。健
康の大きな柱は体力にあると思っ

おり、体力の維持に努める覚悟でい
る。心配なのは女房の健康であり、体
力である。また若いつもりらしく私
の言うことを聞いてくれない。女房
ともども充実した老後が送れること
を願っている。

「故郷は遠きにありて
思う」だけのものか？

宮崎 千恵 (岐阜市出身)

昨年の八月、岐阜高校38年卒の同
窓会を、長良河畔のホテルで開催し
ました。これまでに、何回か遠方か
ら参加した同級生達が、意外にも岐



花火もクライマックス 大スターメイン

阜を離れてから、長良川の花火大会
を観ていないことに気付き、それで
は「花火を観て友と語ろう」といつ
た趣向で、企画し、約40名の参加が
ありました。長良河畔のホテルを予
約し、会の第一部は、従来どおり食
事をしながら近況を語る懇親会。

第二部は、テラスに出ての花火
の観賞。隅田川のような都会の花火
と違って、大玉の花火の音はズド
ンと金華山にこだまして下腹に響き、
大いに臨場感を味わせてくれました。



ズドンと響く大玉花火

第三部は、和室に集まったの酒盛
りと昔話。青春の思い出話しに花が
咲き、深夜2時ころまで盛り上がり
ました。

遠隔地からの参加者の約三分の一
が宿泊を希望し、私も宿泊に付き合
い、翌日、ホテルをチェックアウト
したのち、岐阜公園や鶺鴒の遊船事
務所近くの古い町並み(河原町界隈:
老舗「玉井屋」の女主人・博祐さん
(実は同級生)もこの街作りには大い
に貢献されています。)を散策して、



玉井屋で博祐さんと(右筆者)

皆で、玉井屋の抹茶とおいしい和菓
子を味わいました。

私の若い頃は、かなりの東京志向
でしたが、家庭の事情で不本意なが
ら九州・久留米の大学に進学しまし
た。その代わり機会を見つけては、学
会や歌舞伎観劇、踊りの稽古、コン
サート、美術館など東京や近郊に出
かけていきました。

なかでも1980年代の六本木界
隈の喧噪が好きで、虎ノ門にある定
宿のホテルから歩いて飯倉のキャン
プーヤや旧防衛庁近くのミステー
ィー、またはアマンドの前を通り、
当時のテレビ朝日界隈から坂を下り、
有栖川公園近くの旧麻布プリンスや
広尾のナショナルマーケットあたり
まで、遠くは花柳界の多い神楽坂界
隈や人形町までも足を運び、友人と
ショッピングや、食事を楽しんだり

していました。

しかし、50歳の半ばを過ぎたころより、年齢のせいかわ、こうした都会の喧噪の中に長くいると、疲れがドツとでてくるようになって、1〜2泊の上京でも、帰りの新幹線を乗り継ぎ、JR岐阜駅に着いた頃にはクタクタで駅からはタクシーで長良川の堤防伝いに家まで帰りましたが、対岸の金華山を見上げると、城の上に光る月が川面に映えて、えもいわれぬ幽玄の世界が広がり、その優雅さ、自然の美しさに見とれて、「あゝ岐阜は、本当に素晴らしいところだ。」と、旅の疲れが「スー」と消え、改めて良いところに住んでいる幸せを実感しました。



函玄の間に浮かぶ岐阜城

岐阜に住んで、とても残念に思われますのは、折角の素晴らしい自然がありながら、それをうまく活用し、他所からも大勢の人が来てそれを楽しみ、自らを癒すことができる場所を整備するといった街作りが下手で、岐阜のすばらしさを多くの人達に知ってもらおうといった広報もありなされていないことです。地元に住んでいる人でさえも、その良さに気付いていないこともあります。

東京や首都圏には、岐阜出身のアーテリストや建築家、大手広告代理店のエリート、またはすでに現役をリタイアして世界各国の良い街を回って来た悠悠自適の方々が、たくさんおられるでしょう。しかし、何故かその人達の多くが、両親が亡くなってのち、岐阜から遠ざかってしまう傾向にあります。今回の花火大会の参加者の中には、このように素晴らしい自然に囲まれた良い街を「どうして長く訪れなかったのか」と悔しがっていた人も多く、やっと岐阜の良さに気付いてもらえて、今回の同窓会は、幹事一同が苦労した甲斐があったとうれしくなりました。

この東京岐阜県人会会報『ギフネット』の読者の方たちの多くも、幼い頃や高校生の頃まではきつと岐阜に住んでおられた方達と思いますが、若いころに岐阜という良い環境で育ち、良い教育者から良い教

育を受け、そこから都会にでて大学で学び、さらに研鑽を重ね、現在の地位を得た皆様方にとって、岐阜が人間形成のルーツになっていたのではないかと思えます。その故郷に何か恩返しをする気持ちで、もう一度岐阜という土地を見直し、関西に出かけたついでにでも、名古屋から20分足を伸ばしてみたいかがでしょうか。

また、「岐阜の街のここを整備すると、もっと良くなる」とか、「こういったPRの仕方がより有効だ。」といったアイデアを、地元の友人や後輩達にアドバイスし、その実現に向けて何らかの手助けをして欲しい。(こうしたことに限定した故郷納税制度なども考えてはどうでしょうか。)

全国には、過疎にもかかわらず、それなりに賑わい、多くの人が訪れているなど感じる街がありますが、そこには、必ず都会から故郷に帰り、インフラの整備、町興しに役買った人の努力があったことに気付かされます。(たとえば、大分湯布院のような本当にひなびた田舎の温泉街を一変させた中谷健太郎氏のように)

故郷は、遠きにありて思うものだけではなく、自分たちが少なくとも十数年間学び、育った懐かしい街が、過疎化し、荒廃しないよう、ふと思いついて訪れても心地よい環

境が整うように、少しでもお手伝いをしてほしいと願います。

《略歴》

久留米大学医学部卒
宮崎千恵婦人クリニック院長
岐阜県女性医師懇談会代表、岐阜地区女医会会長、次世代育成を考える会代表など公職多数

『人形浄瑠璃文楽』を
楽しむくわたし流く

村山 絢子 (岐阜市出身)

「人形浄瑠璃 文楽」は、「能」や「歌舞伎」に続き世界文化遺産に登録された古典芸能です。歌舞伎で人気の「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」の時代物の三大名作など多くの演目は、文楽を原作としています。世話物の代表といえる近松の「曾根崎心中」、お初徳兵衛の道行をこ存じの方も多いかと思えます。



「曾根崎心中」 お初

《文楽を観る？それとも聴く？》

文楽は大友が太棹三味線と共に浄瑠璃を語り、舞台上で三人の人形遣いによって人形に魂を入れて、物語が展開します。その中で美しい娘姿の人形は目に涙を浮かべ、袂を口にくわえて口惜しさをあらわします。また、頭巾姿の人形は足の関節も外れんばかりに体をねじり、笑いこぼげ、人間では到底不可能なほど手足を長く伸ばして若い者が韋駄天のごとく駆け出します。人形のふるまいのおもしろさに初めて文楽を観る人も大いに楽しむことができます。

けれども浄瑠璃をしつかり聴けるようになれば、文楽は何倍も面白くなると思います。

《太棹三味線を聴く》

私は長唄三味線の経験から、太棹三味線のずしりと豊かに響く音とあわせてとても繊細な表現ができることにとっても魅力を感じていました。

人間国宝の大夫、竹本住大夫師の



あてすがたおんなまいぎゆ
「艶姿女舞衣」酒屋の段 酒屋のお園

三味線を務める野澤錦糸師を聴く機会ができて、太棹の楽しみ方を教えていたたくようになりました。錦糸夫人が大学の同窓という心安さもあり、観劇のたび、如何にその日の舞台が感動的であったかを熱く伝えました。しかし、三味線が表現するところは、もっと深く多彩で、肝心のところをよく聴けていないことがとても残念でした。そこでもう少ししつかり聴けるように、「私達観客を育ててください」と虫のいいお願いを致しました。

野澤錦糸師匠は、上演演目の舞台となつた古跡や場所を自分の目で確かめ、床本(台本)を深く読み込んで稽古を重ね準備をされます。合宿と称し、上演に先立つて三味線を実際に弾きながら、作曲の工夫された手など聴き逃さないよう解説を下さいました。

たとえば、有名なお園のくどきといわれる箇所で「今ごろは半七様……」の詞の後に心をこめて、チィンとひと撥入ります。これがお園の涙、一滴の涙が深い井戸の水面にほとりと落ちた音を表現しようとしていること、このチィンでお園の心の内を表現してしまうのです。

登場人物の男女、身分、年齢、たずまいを弾き、笹竹に積もった雪が風で落ちたり、池の汀に寄せるさざ波や庭先に遊ぶ雀の情景を表現し

ます。またベンと重々しくひと撥で場面の変わり目を教えるなど、太棹三味線は一人でオーケストラの役割を担います。錦糸師匠のお話を伺って舞台を観ると、三味線が伝えようとしていることを逃すまいと耳を傾けるようになりました。

《素浄瑠璃の醍醐味》

文楽人形なしで大夫と三味線だけで語られるのが素浄瑠璃です。素浄瑠璃は耳を澄まし自由に想像を膨らませて物語を聴くことができます。

現代最高の大夫、竹本住大夫師の語りは、桜丸、勘平、すしやの権太、お園や遊女お初、武家の奥方等々どんな人物も、そして極め付きはお爺さんやお婆さん、ひとり一度に何人もの登場人物を演じ分けて、それは見事です。

住大夫師匠は「浄瑠璃は全部ぶつて、でっせ。ぶつて」をまことしやかに語って人の情を伝えるのが芸、ぶつての笑いをほんとの笑いに聴かせてこそ芸。とおっしゃいます。大夫が語り太棹三味線が模様を弾く素浄瑠璃を耳で味わう素浄瑠璃に遊ぶ醍醐味はここにあります。

《文楽を楽しんでみませんか》

文楽のおもしろさを分かち合い

たいと友人たちを誘って、文楽の間も増えてきました。

以前には住大夫師匠がお弟子に厳しく稽古をつけているところがテレビ放映されたこともありました。文楽の舞台を務める技芸員は、人間国宝の6名の方々と人形遣い、大夫、三味線合わせて約80名です。文楽が好きで好きでたまらない人たち、世界中でわずか80名に満たない人たちが稽古、稽古の厳しい修行の毎日です。それでも「客席に深い感動をもたらすことがとても難しい」のが「人形浄瑠璃文楽」という芸です。

西洋の音楽で育つたひとにとって古典芸能は少々厄介かも知れませんが、外国人の文楽ファンも少なくありません。文楽の素晴らしさを知らないなんてもったいないとおもいます。人形を楽しむのもよし、浄瑠璃に耳を傾けるのもよし、それぞれの楽しみ方で一人でも多くの人に体験して欲しいと思います。ぜひいちど劇場へ足を運んでみてください。文楽ファンが増えますよう応援団の気持ちです。



けいせいこいびまきく
「傾城恋飛脚」新口村の段 梅川